

ボーイスカウト東京連盟
あすなる地区 広報誌
第39号
2022年(令和4年)
7月 2日
組織拡充・広報委員会

日本連盟創立100周年記念事業オープニングセレモニーに参加

本年4月1日から日本連盟創立100周年イヤーがスタートし、これを記念して4月10日(日)、ボーイスカウト会館においてオープニングセレモニーが開催されました。

セレモニーには、全国のスカウトの代表として、あすなる地区からBVS、CS、BS、VS、RSの男女各1名と、佐藤地区委員長、岡村地区協議会長、飯沼地区コミッショナー、引率指導者など、19人が参加しました。

セレモニーでは日本連盟の水野正人理事長による挨拶、来場者を代表して東京連盟の白川雅之理事長より祝辞があり、佐野友保100周年記念事業実行委員長による事業の紹介を行ったのち、あすなる地区の各部門のスカウトが決意の言葉を述べ、スカウト達が引く綱で創立100周年を祝うくす玉を割りました。

最後に村田禎章総コミッショナーによる弥栄で会を締めました。

(写真はボーイスカウト日本連盟から提供いただきました)



日本連盟水野理事長の挨拶



各部門スカウトの決意の言葉



くす玉から祝100周年の垂れ幕が出現



100周年を祝って弥栄

100 YEARS OF SCOUTING IN JAPAN
1922 - 2022

次 葉

- 開式のことば
- 旗儀奉礼
- 国歌斉唱
- 主催者挨拶
- 役員・実業紹介
- 祝辞
- 100周年記念事業紹介
- 代表スカウト宣誓
- くす玉割り
- 連盟歌斉唱
- 弥栄
- 閉式のことば



日本連盟水野理事長と当地区のスカウト達



参加者全員で記念撮影

地区総会で地区役員を選任

4月28日(木)に年次地区総会がオンラインで開催され、地区協議会長はこれまでの杉並6団の岡村 實さんから、中野8団団委員長の伊佐野雅男さんが就任されるなど、以下の通り選任されました。

地区協議会長	伊佐野雅男	新任	中 8	組織拡充・広報委員長	広瀬 治男	留任	杉12
地区委員長	佐藤 武信	留任	杉11	指導者養成委員長	嶋崎 正男	留任	杉 5
地区協議会副会長	並木 明直	留任	杉 3	進歩委員長	金田一 良	留任	中11
〃	竹之内 實	留任	杉 6	野営行事委員長	島田 雅彦	留任	中 5
〃	高橋 宏人	留任	杉11	セーフ・フロム・ハム安全委員長	武藤 八朗	留任	中 3
地区副委員長	島田 雅彦	留任	中 5	信仰奨励委員長	津村 道夫	留任	杉 9
〃	並木 俊久	留任	杉 4	国際委員長	本間 幹人	留任	杉 3
〃	広瀬 治男	留任	杉12	会計	諏佐 道宏	留任	杉11
〃	椎木 誠一	留任	杉13	事務長	並木 俊久	留任	杉 4
名誉会議議員	塚田 英昭	留任	中 5	会計監事	久保田承良	留任	中 3
〃	浅原 房夫	新任	杉 9	〃	橋本 茂樹	新任	杉11

コミッション
4月現在

地区コミッショナー		飯沼 利雄	杉12	任期：2021.7.1～2023.6.30
地区副コミッショナー	BVS	沼上 晶子	中 8	〃
〃	CS	小倉 栄一	中 8	〃
〃	BS	内田 朋子	杉 3	〃
〃	VS	古川 久生	杉 6	〃
〃	RS	永倉 実	杉11	〃
団担当コミッショナー	中野	下地 俊一	杉11	〃
〃	杉並	大原 俊	杉 5	〃

地区協議会長就任のご挨拶

地区協議会長

伊佐野 雅男

この度、4月28日の地区総会にて地区協議会長に選出いただきました。大任ではございますが、あすなる地区の発展のため、精一杯精励して参りますので、どうぞよろしく願いいたします。

さて、本年の4月をもってボーイスカウト日本連盟は100周年を迎えました。

この100年の間においても、ウィルス等のパンデミック、地震等の自然災害、戦争なども繰り返される中、スカウト活動も多く先達の方々に支えられながら、さまざまな困難・環境の変化等に対応して、100周年を迎えられました。

今もまさに似たような環境下にあります。本年は次の100年へ向けた大切な第一歩の年でもあります。次の100年を創造していく主役は今のスカウト達であり、そのスカウトをサポートしていただいている指導者の皆様と存じます。コロナ以前から、スカウト人口の減少・指導者の人手不足等の課題を抱えていて、そこにコロナの追い打ちを受けたのも事実かと存じます。

しかし、コロナにより野外活動への関心も高まりつつもあり、追い風も吹いていて、スカウト人口増加へのチャンスでも感じております。そして、どんな時代でも次世代を担うスカウトたちには、夢や希望をもって進んでいただきたいし、スカウトたちは確実に次の日本社会の支えとなると信じています。

スカウト活動の教場は言わずもがな野外です。スカウトには自然にふれあい、進級・進歩制度をもとに、たくさんの事を体感・経験して、仲間とともに友情を育み、『そなえよつねに』を忘れず、奉仕の精神をいつも心に持ち、人生の大海原に自分の船でオールを漕いでいってほしいと存じます。

指導者の皆様にはご自身の人生経験を生かし、スカウト運動における各種研修・自己研鑽に励み、たくさんの指導者との交流を計り、プログラムの実践と研究に努力し、スカウトへのご指導をお願い致します。

今後もウィズコロナ禍での新しい様式での活動が求められて行く事と存じます。第18回日本スカウトジャンボリーも新たな様式で実行され、新たな知見・経験を得る事と存じます。私達もこのコロナ禍で得た知見・経験を活かし、感染予防・感染拡大対策に努め、変化する事を恐れず臨機応変に、効率的なハイブリッドな活動を積極的に展開していきましょう。

最後に、側面からではありますが、指導者の皆様のご意見・ご要望等を是非とも、あすなる地区、協議会長にお寄せ下さい。そうした事柄からテーマを選び、地区内のコミュニケーションの活性化を計り、皆様と一緒に汗を流して、少しでも改善出来ればと考える次第です。どうぞご協力の程、よろしく願いいたします。



あすなろ地区表彰

4月28日(木)にオンラインで開催のあすなろ地区年次総会で、以下の方々が表彰されました。

- <地区表彰状> 杉並3団 後藤 泰章、鈴木 辰
 杉並4団 福重 光人
 杉並11団 吉田 匠
 杉並12団 天野 規子
- <地区有功記念章> 杉並13団 鈴木 大樹
- <地区感謝状> 杉並11団 土岐 憲二 (故人)

東京連盟表彰

5月21日(土)にオンラインで開催の東京連盟社員総会で、あすなろ地区は下記の方々が表彰されました。

- <県連有功章> 杉並11団 米田 元

- <隊褒彰綬> 団50年章の該当はありませんでした。
- 35年綬 杉並11団ベンチャー隊、杉並13団ベンチャー隊
- 40年綬 杉並5団ローバー隊
- 45年綬 中野11団カブ隊、杉並9団ベンチャー隊、杉並11団カブ隊
- 55年綬 杉並3団ベンチャー隊、杉並4団ベンチャー隊、杉並6団ボーイ隊
- 60年綬 中野5団ボーイ隊、杉並4団カブ隊、杉並4団ボーイ隊、杉並5団ボーイ隊

<優良団表彰>

◎ 2021年度と2022年度継続登録時を比較し、スカウトが5名以上増加した団

- 中野8団 7名 (2021年度スカウト数 65名、2022年度 72名)
 杉並12団 5名 (2021年度スカウト数 42名、2022年度 47名)

◎ 2022年度継続登録時にスカウトを60名以上登録している団

- 中野8団 72名 (全登録数 95名)
 杉並11団 68名 (全登録数 108名)

技能章を取得しました…

2021年度中に各団が取得した技能章は以下の通りです。

	杉2	杉3	杉4	杉5	杉6	杉9	杉11	杉12	杉13	中3	中5	中8	中11	計
野 営 章		2		2			7	1				2		14
野 営 管 理 章							2							2
救 急 章		4					1	3						8
野 外 炊 事 章		2		2			12	1				2		19
公 民 章					4									
パイオニアリング章		1		6	4		3	2			1	1		18
リーダーシップ章				1			3	1				3		8
ハイキング章				4			9	1				1		15
スカウトソング章				6	2		8	1				2		19
通 信 章				1			6					1		8
計 測 章					4		6					1		11
観 察 章				1			2	1						4
通 訳 章												1		1
計	0	9	0	23	14	0	59	11	0	0	1	14	0	131

プラチナキャンパー、プラチナハイカーの伝達

3月29日(火)、杉並区産業商工会館で開催された地区の菊章面接に先立ち、杉並11団ボーイ隊の米田真大さんに「キャンプ50 (プラチナキャンパー)」、同団ボーイ隊の梅原来羽さんに「ハイク200 (プラチナハイカー)」が伝達されました。

米田真大さんは、2020年9月25日認定の「ハイク200 (プラチナハイカー)」に続き、プラチナアワードのダブル達成となりました。

東京連盟ローカルアワードの「キャンプ15, 30, 50」と「ハイク50, 100, 200」は、ボーイスカウト隊の活動のキャンプ、ハイキングを対象とするもので、2人とも中学3年生のため、年度内の伝達式となりました。



プラチナキャンパー50



プラチナハイカー200



菊スカウト章の伝達

4月18日(月)、阿佐谷地域区民センターで開催された地区委員会に先立ち、杉並11団の梅原 来羽さん、工藤 澄子さん、古澤 優真さんに菊スカウト章が伝達されました。



4月26日(火)、阿佐谷地域区民センターで開催された地区進級面接会に先立ち、杉並6団の長谷部 凜さん、杉並11団の今井 文香さんに菊スカウト章が伝達されました。



菊スカウト章、隼スカウト章の伝達

5月16日(月)、阿佐谷地域区民センターで開催された地区委員会に先立ち、菊スカウト章、隼スカウト章が以下の方々に伝達されました。

菊スカウト章 杉並5団 辻 裕仁朗さん
隼スカウト章 杉並11団 奥村 政為さん、斎藤 敦さん



隼スカウト章の伝達

6月13日(月)、阿佐谷地域区民センターで開催された地区委員会に先立ち、隼スカウト章が以下の方々に伝達されました。

杉並5団 関戸 香織さん、杉並11団 平井 飛向さん



18NSJあすなろ地区派遣隊結隊式

8月に都内で開催される第18回日本スカウトジャンボリーに参加するあすなろ地区派遣隊の結隊式が、5月28日(土)、西荻地域区民センターで開催されました。

式には派遣隊の指導者、スカウト、地区役員が参加し、伊佐野地区協議会長の挨拶に続き、飯沼地区コミッショナーより、派遣隊の隊長として中野8団カブ隊隊長の小倉栄一さん、副長として杉並11団ボーイ隊副長の升岡節子さんと、杉並9団ローバー隊の相澤岳琉さんの任命があり、各指導者から挨拶がありました。



また、小倉隊長から中野8団の堀内幹大さんが上級班長に任命されました。

結隊式後は参加スカウトの合同集会を開催して3つの班が編成され、アイスブレイキングゲームでお互いの緊張を解きほぐしました。

各班は班集会で班長を選出するとともに、班内の役割分担を決め、班名、班呼、班歌などを相談しました。

派遣隊のスカウト総数は21名で、内訳は中野5団1名、中野8団1名、杉並3団1名、杉並6団1名、杉並9団5名、杉並11団9名、杉並13団3名になります。

また、6月25日(土)～26日(日)には、18NSJ派遣隊の訓練キャンプが地蔵山キャンプ場で開催されました。



伊佐野地区協議会長の挨拶



指導者の任命



上級班長の任命



参加者の記念撮影



小倉隊長



升岡副長



相澤副長



背中に書かれた文字を伝えるゲーム



班集会で班名などを相談

18NSJ訓練キャンプ 高まる班意識

6月25日(土)～26日(日)、第18回本スカウトジャンボリー(18NSJ)に参加のスカウト、指導者による訓練キャンプが、地蔵山キャンプ場で開催されました。

25日は午後2時半に受付を開始し、開營式での飯沼地区コミッショナーの挨拶、設営許可のあとは活動着に着替え、各班の資材・備品を班サイトに搬入し、ジャンボリー会場の20m×25mのサブキャンプエリアを想定して設営して、夕食の準備を開始しました。

各団のスカウトで構成される班のため、営火の出し物についても班会議で相談して決めるなど、今回の訓練キャンプでの経験を通じて、ジャンボリーの期間中もチームで協力しあう班意識が高まることになりました。

翌日は、みんなのアイデアを出し合って「派遣隊の隊旗」作りをしたり、18NSJに行われる「日本一プログラム」では、決められた量の薪で一定の高さに張った麻ひもを焼き切る「火おこし」ゲームが予定されているため、いかに早く火をおこすか工夫しながらゲームを楽しみました。

今回の18NSJはコロナ感染防止のため、一極集中を避けて分散開催することになり、東京の中央会場と全国6ブロックにサテライト会場を設置して、8月5日(金)から10日(水)まで5泊6日で開催されます。

あすなる地区の派遣隊は中央会場である大田区の平和島公園キャンプ場と、八王子のひよどり山キャンプ場で、期間中に会場を入れ替えて行われます。

18NSJの地区派遣隊の活動の様子は、次号の“18NSJ特集”でお伝えする予定です。



会場受付で検温



開營式



訓練キャンプの参加者



資材をサイトに搬入して設営



派遣隊の隊旗作り



火おこしゲームの練習



閉營式で国旗降納

ボーイスカウト救急法講習会 ペットボトルで心肺蘇生の体験

6月19日(日)、南部すこやか福祉センターでボーイスカウト救急法講習会が開催されました。講習会は技能章の救急章課目の履修を目的としたもので、各国から38名のスカウトが参加して、救命方法の習得をめざしました。

講習会では食中毒、熱中症などの急病や、骨折、打撲、捻挫などの外傷・キズについて、スライドを使いながら解説があり、実技では三角巾を使い、手旗を副木の代わりにした骨折の手当や、出血した箇所を三角巾でゆるめに結び、間に手旗などでねじりながら止血する手当が行われました。

胸骨圧迫(心臓マッサージ)の練習は二人が組になり、訓練用人形の代わりに、参加者が持参した空のペットボトルを使用して、一人は人の上半身が描かれた用紙の心臓の部分にペットボトルの蓋の部分を押さえて固定し、一人は手の平を重ね、垂直に圧迫できるよう、肘をまっすぐに伸ばし、1分間に100~120回の速さで、繰り返し圧迫しました。

心肺蘇生の練習に使用するペットボトルとしては、「サントリー南アルプス天然水」のペットボトルを2cm程度の厚みになるくらい繰り返し圧迫することで、ペットボトルの復元力もあり、訓練用人形とほぼ同等の感触があるため、推奨されています。

傷病者の搬送法では、器具を使わずに背負ったり、担ぎ上げや横抱きにより、一人、あるいは二人で運ぶ方法を実際に体験しました。

また、竹材、毛布を使った急造担架を作り、運ぶ人は腰を痛めないように腰を落して傷病者の頭部から持ち上げること、降ろす時は脚部から降ろすことを注意して、お互いに傷病者役になって体験しました。

今回の講習会スタッフは地区役員、コミッショナーが担当し、杉並11団ローバー隊で富士スカウトの牛山明音さんは、看護学生として学んでいる知識、経験を活かして、三角巾の使い方などの指導、支援の奉仕をしました。



救急章



スライドを使用した学習



牛山明音さん(中央)の三角巾指導



三角巾の上腕骨折の応急手当



三角巾を使った捻挫の応急手当



手旗をねじって止血



ペットボトルで心肺蘇生の練習



2人で傷病者の運搬



毛布の端を巻いて運搬



急造担架で運搬

ボーイスカウト講習会 多くの方が受講

5月22日(日)、第47回ボーイスカウト講習会が西荻地域区民センターで開催されました。

主任講師は日本連盟リーダートレーナーの井沢啓一さんで、33名が参加し、5つの班で編成しました。

講習会の参加者のうち、ローバー年代の若い方も13名が参加し、講習会の指導者としてもローバー年代の2名が班長として奉仕しました。

講習会はスカウト活動の内容を分かりやすく伝えるため、講義にかたよることなく、「行うことによって学ぶ」内容になっています。

「愉快的ハイキング」のセッションでは、近くの桃井はらっぱ広場に出かけ、班集会を行ったのち隊集会の流れを体験し、ロープワーク、キムスゲーム、歩測の3つのチェックポイントを巡って、班の仲間と一緒に課題をクリアすることにより、スカウト教育法を体験しました。



主任講師 開講の挨拶



スライドを上映しながらのセッション



歩測の練習



ロープワークの練習



木陰で上級班長から連絡事項の伝達



上級班長に報告してハイキングに出発



ロープワーク



キムスゲーム



歩測

地区合同くまキャンプ 1日目

中野8団 カブ隊隊長 小倉 栄一



これまで杉並11団と13団は、大宮八幡宮スカウトの森で合同くまキャンプを開催していましたが、昨年からカブ部門の円卓メンバーで参加希望の団があり、円卓を中心に打合せを重ね、杉並5団、6団、11団、13団と、中野8団の5個団が参加したくまキャンプが実現しました。

来年からボーイ隊に上進するくまスカウトが、初めてキャンプの体験をして、最上位スカウトとしての心構えを持たせることを目的とした訓練キャンプとし、まずはキャンプ場としてお借りする大宮八幡宮の参拝からスタートしました。

団をまたいで混合組を編成し、自己紹介をして、組長や次長、記録、備品、食事係などの役割を決めた後、くまスカウトとしての心構えなどのお話を聞いて、設営です。

初めてのソロテントと、食卓用フライ、かまどなどを設営しましたが、お昼ぐらいから豪雨があり、みんな水浸しになりました！

その後、雨が上がってから、くま訓練としてロープ結び、国旗掲揚とナイフの扱いを習いました。

ナイフのプログラムは、全ての課題をクリアすれば、ビクトリノックスとのコラボパッチのチャレンジ章である“フィールドマスター”をゲットとなります。小枝を削って“はし”を作ったり、板に穴をあけたりを体験しました。

火起こし体験のあと、炊事訓練として夕食にカレーライスを作り、みんなでおいしく食べました。

夕食後の少しの時間でしたが、組ごとにスタンツを考え、暗くなってからのキャンプファイヤーでは、歌って踊って、楽しい時間を過ごしました。

その後、またまた豪雨に！ 長時間降り続き、早めにテントの中に入りましたが、テントの中からみんなで話をしたり、ゲームをしたりと、最悪のコンディションの中でしたが、明るく過ごしたくまスカウトのパワーに、リーダー一同は心強く感じました。

2度の豪雨に見舞われましたが、予定したプログラムはほぼ実施でき、良かったです。



開営式



くまキャンプに参加のスカウト、指導者



テントを張って設営



雨の後の水たまり



夕食のカレーライスの準備



夕食の準備



雨もあがってキャンプファイア



くまキャンプ 2日目

杉並11団 カブ隊副長 工藤 信二

降っていた雨も明け方には上がり、2日目の朝食はインスタントラーメンで、雨で薪はぬれていましたが、前日の炊事訓練の成果か、どの組も時間内に食べ終わることが出来ました。

くまスカウトとしての技能取得のため、手旗、8方位による地図の見方、計測訓練を行いました。普段手旗を行わない団もありますが、この機会にチャレンジし、歩測は50mを計測できるよう、何度も自分の歩幅を確認しました。

陽射しも出て、テントサイトも少し乾いてきたため、朝できなかつたテントの乾燥作業もリーダーに確認しながら、どうすればテントの中もしっかり乾燥できるか体験しました。

昼食は「カートンドック（パックドック）」で、コッペパンにソーセージ、レタスにチーズを乗せ、アルミホイルで巻いて牛乳パックに入れ、こげないように工夫しながら焼いたもので、団により呼び方が違いましたが、作り方は一緒だったようです。

午後の訓練は救急法で、キャンプではやけどやケガをすることもあるため、簡単な救急法をおぼえておけば、役に立つこと間違いなしです。自分で対処できないときは、大人を頼ることも忘れずに。

追跡ハイクでは仲良くなった仲間と力を合わせて、技能訓練で修得した手旗の暗号解読で、暗号の答えは「デンワロカケロ」でした。公衆電話から電話をする練習にもなりました。

お楽しみの宝探しの場所は、方位と距離で記されていたため、方位磁石と歩測を頼りにみんなで協力して探しました。撤営のプログラムでは、借りたテントや備品はきれいにして返しました。

2日間のくまキャンプでは、初めて会う仲間と楽しく過ごすことができ、カブスカウトの最年長として、技能や心構えが身についたことと思います。団に戻って、くまスカウトとして後輩の指導に期待します。



くまキャンプのテントサイト



朝食のラーメン作り



朝のゲーム



手旗の原画、発信の練習



歩幅の計測



方位の測定



いこいのひと時



6月18日(土)～19日(日)、地区ローバー会の新歓キャンプを杉並13団の活動場所の大宮八幡宮内で行いました。新型コロナウイルスの影響で、3年ぶりの地区ローバーの野外活動となりました。

私自身もコロナの影響でキャンプ等の泊まりの活動を行なっておらず、今回のキャンプが地区ローバーでの最初の野外活動となり、久しぶりの野外活動でしたので、充実した時間を過ごすことができました。梅雨の時期でしたが、夜に少し雨が降った程度で、暑くなく過ごしやすい気候でした。

18日の午前中は、奥多摩にマス釣りに行きました。初めての釣りだというスカウトもいましたが、それぞれ試行錯誤して真剣に釣り向きあえました。その結果、釣りのコツを掴んだのか、合計で58匹のニジマス釣ることができ、とても楽しい思い出となりました。釣った後には、内臓等を自分達で処理しました。

その後大宮八幡宮に戻り、釣りに参加できなかったスカウトも合流し、合計21人で釣ったニジマス等でバーベキュー(BBQ)を行いました。

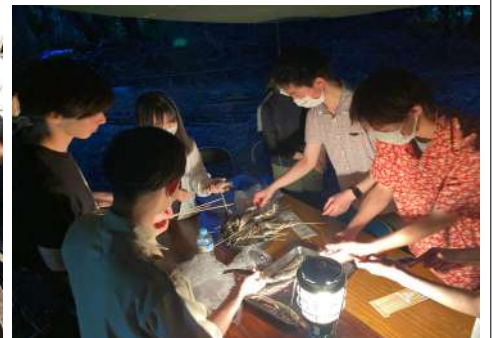
私は普段は団を中心に活動しているため、今までにこんなにも多くの地区のローバースカウトと交流する機会が無く、初めて顔を合わせるスカウトや、今まで交流のなかった団について知る良い機会になりました。

最初は少し緊張していた参加者も、皆で協力して58匹のニジマスに一生懸命に串を刺して塩を降り、全員で調理をして、交流しながらBBQを楽しんだことで、お互いを知り、仲良くなることができ、あっという間の2日間の新歓キャンプとなりました。

今回の地区ローバーの新歓キャンプをきっかけにして、今まで以上に地区ローバーでの活動が増え、充実していくと期待をしています。地区の同じローバー世代が集まり、交流し、協力しあって何かを成し遂げていくことが、より良いスカウト活動に繋がっていくと強く感じました。

今年は、地区ローバーでの夏キャンプを実施する予定です。地区ローバーの夏キャンプではもっと多くの人との交流を目標とし、日々スカウト活動に精進していきたいです。

最後になりますが、資材を貸して頂いた各団の皆様、ローバーの活動連絡等にご協力頂いた皆様に感謝いたします。



久しぶりの団プログラム

杉並3団 ベンチャー隊 柴田 門

桜が咲く春休みの3月26日(土)～28日(月)、ボーイ隊とベンチャー隊は地蔵山キャンプ場で春キャンプを行い、27日(日)にはビーバー隊とカブ隊の訪問ハイキングで、久しぶりに団全体の活動プログラムを行った。

団プログラムでは、ビーバー隊から保護者までが混合した6つの班にわかれ、ベンチャー隊以上のスカウトが班長となって、団プログラムのテーマの防災に関するポイントラリーを行った。

各ポイントでは、竹材と布で作った急造担架での班員運び、防災クイズ、水運び、缶切りを使ったデザートフルーツ缶開けのほか、ケガ人役のスカウトを道具を使わずに背負ったり、向かいあった2人が組んだ手に乗せて運んだ。

最近の缶詰はプルトップ式が主流で、家庭でも缶切りを見たことがないスカウトも多く、避難所でプルトップ式ではない缶詰が支給された場合、用意された缶切りやピーラー(皮むき器)、ハサミなどのどれを使ったら缶詰を開けられるか、班のみんなでワイワイ協力しながら考えてもらい、缶切りを使った缶詰開けは全員が体験して、災害時に役立つ知識を身につけることができた。

お昼は実際の災害で食事が作れなくなった場合を想定して、班ごとにかまどを作り、薪を拾い集めて火をおこし、お湯を沸かして市販のアルファ米のご飯を作り、レトルトのおかずは防災用発熱剤で温めた。

キャンプ経験の少ない年少のスカウトは野外炊事の経験ができ、初めて防災食を食べるスカウトも多いため、みんな興味深そうに調理し、楽しそうに食事をしていた。

お腹いっぱいになったスカウト達は、残りのポイントラリーが終わると”だるまさんがころんだ”をして遊んでいた。

走り回っているカブやビーバーのみんなが楽しそうにはしゃいでいるところを久しぶりに見た気がして、団プログラムができて本当に良かったと思った。

